



(左) 花田 司 氏
昭和20年5月、34歳で戦没
(右) 花田 良枝 氏
昭和20年7月、28歳で病死
赤子は写真提供者の弟（当時2歳）

これらは、昭和20（1945）年5月16日、フィリピン・ルソン島のヌエヴァ・ヴィスカヤ州イムガン北側高地において戦死された、戦車第二師団特設第八機関砲隊所属の花田司氏に関する資料である。

氏は、昭和19（1944）年10月20日、門司港を出帆し、同年11月10日ルソン島マニラに上陸した。

爾後、マニラ高射砲隊司令官の指揮に入り、カロカン飛行場において防空戦闘の任に当たる。

昭和20年1月5日、第四航空軍司令官の指揮に入り、北部ルソン島ソラノに転進、途中カバナツアン南方パパヤで米軍の爆撃を受け、火砲は悉く破壊された。同月下旬、パヨンポンに到着し、以後、同地付近の警備の任に当たる。同年4月上旬、新たに機関銃の交付を受け、戦車第二師団長の指揮に入り、ヌエヴァ・ヴィスカヤ州イムガン北側高地に陣地を占領。ルソン島縦貫道路の占有を企図する米軍が北上し、戦車第二師団は第十師団とともにこれを迎え撃つ。同年5月中旬、部隊は多大の損害を受け、以後遊撃戦闘に移行。

「一日、この地で自分たちが頑張れば、日本本土に向かう米軍の進撃をそれだけ遅らせるのだ」という気持ちを抱いて、凄惨な陣地戦を展開した。

この戦場を闘った米軍将兵が残した記録に、日本軍の戦闘ぶりに敬意を表した事例の大変多いことは、異例のことといわれている。